



2020年10月 日本海スケトウダラ資源調査結果

道総研

令和2年11月2日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166

中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は，宗谷・留萌海域で前年比 1.13，石狩・後志海域で前年比 0.99，檜山・渡島海域で前年比 0.62
- ◎利尻・礼文島周辺では尾叉長 37cm 前後の 4 歳魚（2016 年級）と尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚（2015 年級）主体
- ◎武蔵堆西，積丹沖，岩内沖，檜山・渡島海域では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚（2015 年級）と尾叉長 45cm 前後の 8 歳魚（2012 年級）主体
- ◎留萌沖では尾叉長 18 cm 前後の 1 歳魚（2019 年級）や尾叉長 10 cm 前後の 0 歳魚（2020 年級）主体

1. 調査概要

2020年10月13日～28日に道西日本海の図1に示した海域において、稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により、計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

2. 魚探反応量

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図2に、魚探反応量 NASC の分布を図3に示します。今年度の調査では、宗谷・留萌海域では利尻・礼文島西(ライン A)，石狩・後志海域では積丹北(ライン H, I)，檜山・渡島海域では奥尻海峡(ライン Q 東)で強い反応が見られました。

海域別の反応量は、宗谷・留萌海域で前年比 1.13，石狩・後志海域で前年比 0.99，檜山・渡島海域で前年比 0.62 であり、全体では前年比 0.97 でした（魚探反応量は暫定値）。

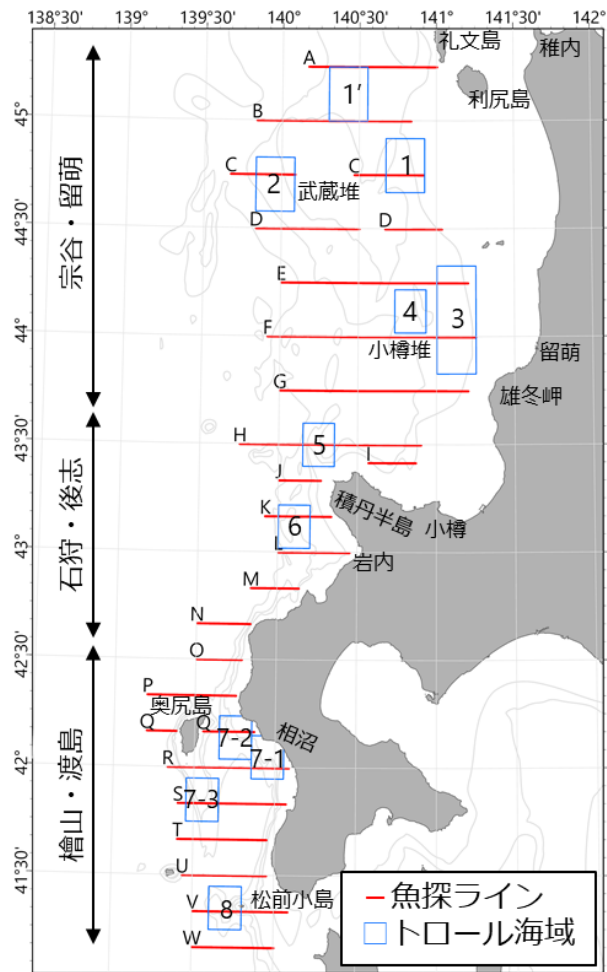


図1. 調査海域図

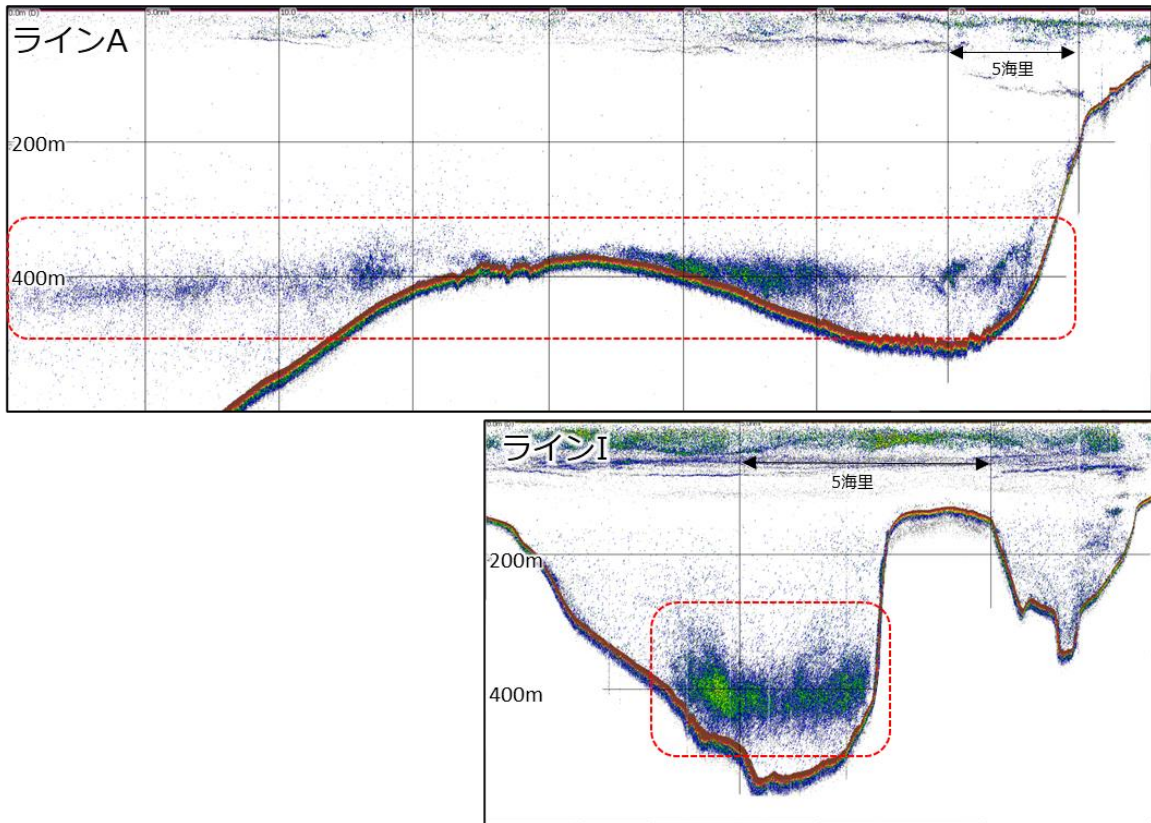


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーグラム）.
赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応. 各画像の右側が沿岸側.

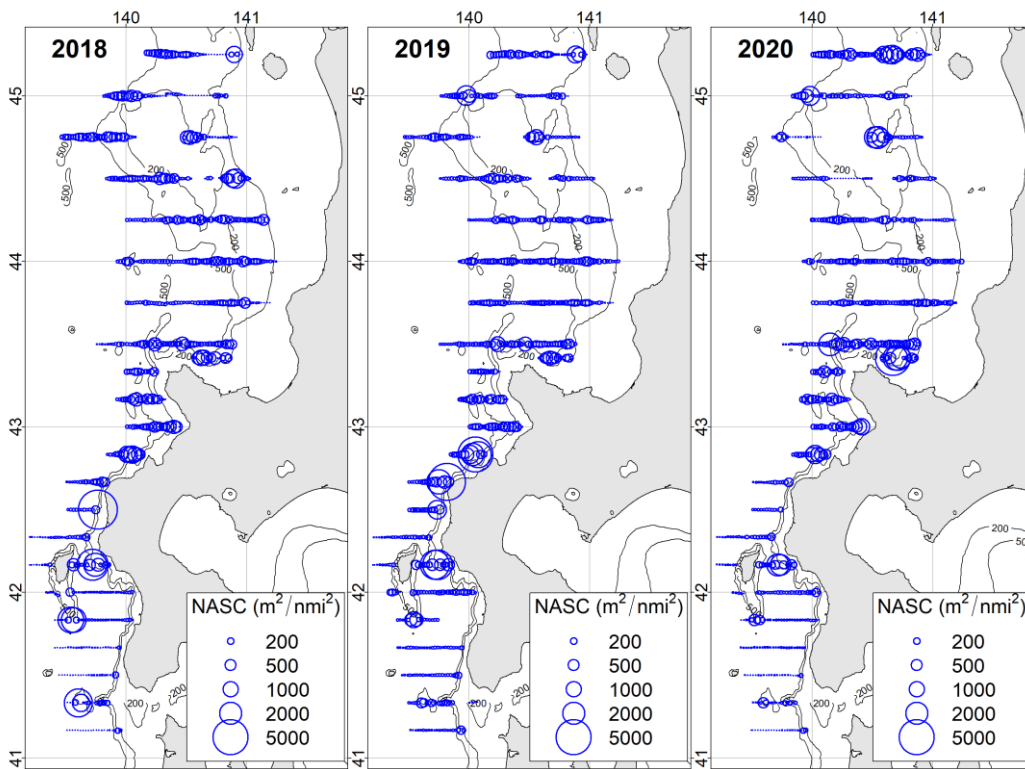


図 3. 魚探反応量 NASC の分布.

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる.

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図4に示します。利尻・礼文島周辺海域(トロール海域1')では尾叉長37cm前後の4歳魚(2016年級)と尾叉長40cm前後の5歳魚(2015年級)と思われる個体が主体でした。

武蔵堆西部, ならびに積丹～渡島海域(トロール海域2, 5～8)では尾叉長40cm前後の5歳魚(2015年級)と45cm前後の8歳魚(2012年級)と思われる成魚が主体でした。留萌沖(トロール海域3)では尾叉長18cm前後の1歳魚(2019年級)と尾叉長10cm前後の0歳魚(2020年級)と思われる未成魚が多く見られました。

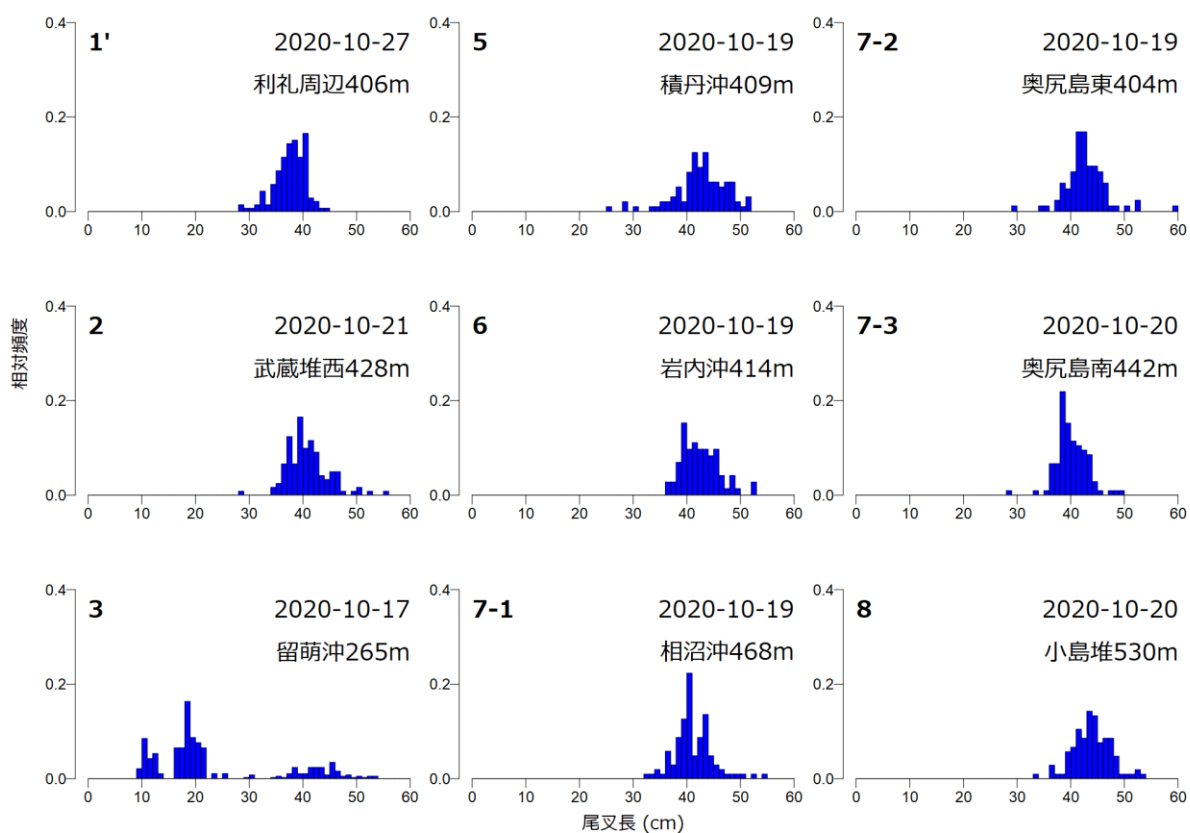


図4. スケトウダラの尾叉長組成 (2020年10月道西日本海).
各グラフ左上数字は図1のトロール海域番号と対応.